

全国キリスト教障がい者団体協議会

開会礼拝説教キ障協会長 廣田守男

「願いを起こさせ、実現に至らせる神」

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。」（ピリピ人への手紙2章13,14節、新改訳）

皆さんこんにちは。2025年の全国キリスト教障害者団体協議会（キ障協）総会・修養会に遠近からお忙しい中、ご参加下さり心から歓迎致します。

わたしは昨晚から宿泊させて戴き、午前中に透析治療を受けて、皆さんと共に開会礼拝に与らせていただき心から感謝しております。

キ障協が創立総会を開いて発足したのが1980年10月28日（於：京都のはこぶねセンター）で、今年45年の節目を迎えたのです。発足当時は、身体障害者伝道協力会（東京）、京滋障害者キリスト伝道会（京都）、兵庫身障者共励会、広島障害者キリスト伝道協力会、四国障害者キリスト伝道協力会の5団体で、会長：森野正男氏（佐原教会牧師・千葉）、副会長に篠原せつ氏（身伝協会長）、兼清章師（兵庫共励会会長）です。本来ならばキ障協前会長・の渋沢久顧問が生前に諸先輩の講演集と略史を出版したく願っておられ意志を継ぎたかったのですが、間に合わず申し訳なく思っております。キ障協に所属する各団体の発足のためにも色々な方々のご尽力により現在に至っていることを覚えます。兵庫共励会の発足も三島実郎牧師や山口千代子牧師に兼清章牧師、その他信徒の方々の上に志が与えられたのも、ピリピ人への手紙2章のみ言葉の通りに、神様が「願いを起こさせ、実現に至らせて下さる」事により、またその神様の働きに応じて協力された方々の賜物によります。

これらのことを覚える時、神様はひとり一人の心に働きかけ、願いを起こさせて下さるばかりか、実現に至らせて下さる御方であり、この神様の導きに信頼し、皆さん方が一生懸命に努力された結果であります。ですから今後も、お互いに示されたことを率直に告白し合い、お互いが心に留め、祈りをもって事に携わって戴きたいと思えます。

最後に、キ障協の働き及び所属する各団体の働きにおいても役員のみならず、会員ひとり一人が心を一つにして、様々と新しい取り組みをし、プログラムを進めてゆかれますように、期待しております。

◎ピリピ2章にキリスト者が「世の光として輝く」ために大切なあり方を記されています。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」（ヨハネ8:12）。「あなたがたは、世界の光です」

(マタイ 5:14)。ここにキリスト御自身とその御方を信じる者の存在があるのです。①キリストへの「謙遜と従順」です。それはイエス・キリスト御自身が謙遜であられ、神様に服従されたからです。それがたとえ十字架であつても従順であられたのです。神様は私たちの内に働いて「志を立てさせ、行わせてくださる」御方なのです。ですから人を意識した歩みでなく、神様の前に敬虔な歩みを求め続けていきたいものです。神様は御自身を敬う者に対して「救いを達成」したく願っておられるのです。私たちは主イエス様の功によって救われていますが、益々イエス・キリストを敬い、潔められ、キリストに似たものとして変えられていくのです。②「つぶやかず、疑わずに行う」ことです。イスラエルの民の失敗はエジプトを脱出した直後にすぐに眩き、疑ったことです。「何時も喜び、絶えず祈り、すべてのことを感謝する」ことにより、非難されることのない純真な者とされ、「傷のない神の子ども」とされてゆくのです。③「いのちのことばをしっかりと握る」ことです。み言葉の約束を信じ、感謝して歩むことによって力と勇氣が与えられるのです。

◎時代が邪悪であればあるほど、暗闇であればあるほど「光り輝く」存在が求められている。私たちが主イエスを信じ「主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていきます」(Ⅱコリント 3:18)。与えられた使命を全うさせていただくために主の導きに従って歩みましょう。尚、各地での戦争の終結と分断が解消され、自然災害で被災された方々に慰めと励ましを祈り、支援の手が伸べられ、一日も早く新型コロナウイルスの終息を祈りましょう。

皆様の上に神様の祝福をお祈り申し上げます。